

授業概要

保育実践において実際の子どもに即して関わることは子どもの一人一人の心身の発達や学びを最適に進めるために重要である。そのために子どもの実態に即した発達や遊び、子ども同士のやり取りの過程の中で子ども理解する視点を学ぶ。合わせて、子どもを理解するための具体的方法、そして子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について実践的に学ぶ。

授業計画

第 1 回	保育や教育における子どもの理解と意義
第 2 回	子どもの理解に基づく保育及び教育の展開(実際の保育園の子どもの生活と保育士・教師の関わりの様子を確認しよう)
第 3 回	子どもについての共感的理解と子どもとの関わりの必要性
第 4 回	子どもの理解① 身体と運動機能の発達
第 5 回	こどもの理解② 言葉の発達、思考の発達
第 6 回	こどもの理解③ 遊びの変化。友達関係の発達、思いやりの心(共感性)の発達
第 7 回	子どもの友達関係と社会的成長を支える保育士・教師の役割
第 8 回	事例から学ぶ① 子ども相互の関わりと関係づくり
第 9 回	事例から学ぶ② 集団での経験(競争、達成感、協力)と子どもの成長
第 10 回	事例から学ぶ③ 葛藤やつまずき(いざこざ・ケンカ)と子どもの成長
第 11 回	事例から学ぶ④ 子どもの成長と保育士・教師の関わり
第 12 回	子どもの理解とカンファレンス
第 13 回	ロール・プレイによる子ども・保育士・教師の理解(その意義と必要性)
第 14 回	① ロール・プレイの実践を通して子どもの理解を深める
第 15 回	② ロール・プレイの実践を通して保育士・教師の対応の仕方を深める
第 16 回	定期試験

到達目標

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

履修上の注意

- ① 毎回出席を取るので休まないこと。
- ② 私語・携帯は慎むこと。
- ③ 授業には積極的に参加すること。授業中は質問していくので積極的に発言するように心掛けること。
- ④ 内容に応じて、小テストを実施することがある。

予習・復習

各回の授業については事前に目を通し調べておくこと。授業の内容によっては、予習・復習を兼ねてレポートを課すことがある。

評価方法

レポート提出(30%)、平常点(授業の中で行う小テスト)(30%)、筆記試験(40%)により合わせて総合的に評価する。

テキスト

テキストは特に指定しないが、適宜必要に応じて参考書などを紹介する。